

祈りの諸問題 第 5 回 最終回

☐ 祈りに関する学び全体のアウトライン (2019 年 9 月 8 日から開始)

1. 祈りの原則 (5 回)
2. 祈りの 3 つのタイプ (3 回) 個人的な祈り・集会での祈り・終末期における祈り
3. 旧約聖書の中の祈り (5 回)
4. 新約聖書の中の祈り (20 回)
5. 祈りの条件 (4 回) 祈り手に関する条件・祈り方に関する条件
6. 祈りのルール (3 回)
7. 祈りの諸問題 (5 回)

☐ 「祈りの諸問題」のアウトライン

1. 誤った祈り
2. 祈りと 神の摂理
3. 祈りと 神の偉大さ
4. 祈りと 神の全知
5. 祈りと 神の主権
6. 祈りと 自然の法則
7. 祈りを妨げるもの
8. 聖書箇所での誤った適用
9. 祈りが答えられないことについて

本日は、祈りに関する学びの最終回です。

☐ 第 9 祈りが答えられないことについて (アウトライン)

1. 事例
2. 祈りが答えられない 10 の理由
3. 大きな 3 つの原因
4. 祈りが答えられないとき、自問すべき 6 つのこと
5. 祈りと答えの関係から見る 4 つのタイプ
6. 祈りが答えられるための 10 の条件
7. 病人のための祈り 9 つの原則

□ 第9 祈りが答えられないことについて

6. 祈りが答えられるための 10 の条件

(1) 不安を抱いていることを正直に祈る

- ① **ピリピ 4:6** 何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。
- 「何も思い煩わないで」とは、何事も樂觀しなさいということではない。人は誰しもが不安や心配ごとをかかえる。そのとき、不安や心配ごとを自分の内に隠し込まないように、ということである。
 - 私たちが何か心配事について祈るときには、不安を抱いていることを正直に神に申し上げる、そして自分がどのようなことを願っているかを祈る。
 - 私たちが祈る願い求めに対してどのように答えるか、それを決めるのは神である。しかし、その願い求めを祈りの中で神に差し出すこと、それは私たちがなすべきことである。
- ② **I ペテロ 5:7** あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。
- 神は私たちのことを気にかけ、世話をしてくださる。このことを覚えるとき、私たちは不安や心配ごとをかかえても、神に感謝をもって祈ることができる。
 - そして、私たちは神の前に正直になって、自分の不安について祈ればよい。正直であること、それが、祈りが答えられるために、とても重要な条件である。

(2) 神の前にへりくだる

ルカ 18:9~14

- 取税人とパリサイ人の話
- パリサイ人は、「心の中でこんな祈りをした」。その内容は、「神よ。〇〇を感謝します」と感謝の祈りのような形を用いているが、〇〇の部分には、自慢することばが並んでいる。そして、「私は週に二度断食し、自分が得ているすべてのものから、十分の一を捧げております」(12 節)と、自分の行いを誇った。これは、祈りではない。「自分を正しいと確信していて、ほかの人々を見下している」(9 節) だけである。パリサイ人のこの祈りには、神はお答えにならなかった。

- 取税人は、神殿の丘に上っては来たが、神殿からは遠く離れて立ち、目を天に向けようともせず、自分の胸をたたいて言った。「神様、罪人の私をあわれんでください。」取税人は、神の前にへりくだった、そしてありのままの自分を神の前に差し出し、神のあわれみに委ねた。
- 義と認められて家に帰ったのは、パリサイ人ではなく、取税人であった。祈りが答えられるために必要な条件は、神の前にへりくだることである。

(3) イエスの御名を用いる

ヨハネ 15 : 16 あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命しました。それは、あなたがたが行って実を結び、その実が残るようになるため、またあなたがたがわたしの名によって父に求めるものをすべて、父が与えてくださるようになるためです。

- イエスの名によって祈るということは、イエスの権威において祈ること、イエスのために祈ること（＝イエスの栄光のために祈ること）である。
- 詳しくは、2021 年 5 月 23 日「祈りの条件 第 4 回 イエスの名によって祈ることの 4 つの意味」

(4) 神から義人とされ、聖いものとされていることの上に立つ

- ① **詩篇 66 : 18～19** もしも不義を 私が心のうちに見出すなら 主は聞き入れてくださらない。しかし 確かに神は聞き入れ 私の祈りの声に耳を傾けてくださった。
- ② **ヤコブ 5:16** ですから、あなたがたは癒されるために、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、働くとき大きな力があります。

- 信者は、信じたときに義と認められ、神の目から見ても義人とされ、完全に聖い者とされている。それゆえ、信者になったばかりの者も含めて、信者はすべて「聖徒」である。これは、神の恵みにより信仰を通して得た義である。
- **信者の祈りの基盤は、神により義人とされ、聖いものとされていること（これを「義認」という）である。**
- 救われたあと、信者は義人とされたこと、聖いものとされたことにふさわしい者へと実際に変えられていく。これもまた人の努力ではなく、信仰を通して与えられる神のみわざである。これを「聖化」という。
- このように、義認を受け、聖化の途上にあるのが信者であるが、もし詩篇 66 : 18「不義を見出す」【＝罪に執着する、よろこんで見つめる】、という状態、すなわち罪に浸る生活に陥ると、その信者の祈りは答えられ

ない。詩篇記者は 19 節で、「確かに神は聞き入れ 私の祈りの声に耳を傾けてくださった」と述べている。詩篇記者は、罪に浸る生活をしていなかったからである。

- 信者の聖化が進むと、ヤコブ 5 : 16 「正しい人」（ここの文脈では、14 節の「教会の長老たち」を指す）の段階に来る。「正しい人の祈りは働くと大きな力があります」。この祈りは、確信をもって力強く祈る祈りである。詳しくは、4 月 11 日「祈りの条件 第 1 回 《力強く祈ること》」
 ➤ 【補足】「互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい」・・・「一方は罪は言い表し、他方は相手のために祈りなさい」→罪が原因で病気になった信者は、その罪を長老たちに言い表し、それを聞いた長老たちはその信者のために祈る。
- 「正しい人」の祈りの場合でも、祈りの基盤は、【**神から義人とされ、聖いものとされていること**】である。その人の個人的な正しさや、長老としての立場ではない。

(5) 夫婦が一致して祈る

I ペテロ 3 : 7 同じように、夫たちよ、妻が自分より弱い器であることを理解して妻とともに暮らしなさい。また、いのちの恵みをともに受け継ぐ者として尊敬しなさい。そうすれば、あなたがたの祈りは妨げられません。

- 妻とともに暮らしなさい、理解して
- その女性に敬意を払いつつ、(その女性は) 自分よりも弱い器であるから、(また) いのちの恵みの共同相続人であるから
- (そうすれば) 結果として至る、あなたがたの祈りが妨げられない
- 詳しくは、2021 年 6 月 27 日「祈りのルール 第 2 回」

(6) 信じて祈る

① マタイ 21 : 21~22、マルコ 11 : 22~24

② ヤコブ 1 : 5~8

- 私たちの祈りの基盤は、神を信じる信仰である。神のことば、神の約束を信じる信仰である。
- 神の約束を握って祈るとき、私たちはそれをすでに得たと信じて祈る。そのような祈りに神は答えてくださる。

(7) 忍耐をもって祈り続ける**ルカ 11 : 5～10**

- この物語のポイントは、祈りの生活においては忍耐を働かせることが大切であるということ
- 9 節「求め続けなさい、探し続けなさい、たたき続けなさい」

(8) 神のみこころに従う**I ヨハ 5 : 14～15**

- この箇所の重要な部分は、「神のみこころにしたがって願う」である。
- 祈るとき、神のみこころにしたがって願い求めるなら、その祈りは答えられる。
- 祈ったが答えられなかった、別の形で答えが与えられた、祈りの答えは神の時を待って与えられた、・・・こういったことを神のみこころとして受け容れる、これもまた「神のみこころに従うこと」である。

(9) 神のことばを心の中に住まわせる

ヨハネ 15 : 7 あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまっているなら、何でも欲しいものを求めなさい。そうすれば、それはかなえられます。

- イエスのことばを私たちの内に住まわせること、これは、祈りが答えられるための条件である。なぜなら、イエスのことばを心の中にとどめるとき、
 - 私たちは誤った祈りをしないようになる
 - 利己的な動機からの祈りをしないようになる
 - 神のみこころに従った祈りをするようになる
- イエスのことばを心の中に住まわせるとは、イエスのことばに従順であるということである。

(10) 同情心を持つこと

箴言 21 : 13 貧しい者の叫びに耳を閉ざす者は、自分が呼ぶときにも答えてもらえない。

- 他の人への無関心（特に貧しい兄弟姉妹への無関心）は、私たちの祈りを妨げるものである。
- 詳しくは、8 月 8 日「祈りの諸問題 第 2 回」

7. 病人のための祈り 9つの原則

祈りが答えられなかったという経験に、私たちが最もよく直面するのは、病人のための癒しを求める祈りをしたときである。

聖書の教師で、E. スタンレー ジョンズという方がおられる。その方の「病人のための祈り 9つの原則」を、ここに紹介する。

- (1) 神はどんな病気でも治すことができると信じる
- (2) できるかぎり具体的な病状を聞いて、そのために祈る
- (3) 罪の告白や赦しが必要であるかどうか、見きわめる
 - 罪の告白・・・I ヨハ 1:9 気づいた罪を神の前に言い表す
 - 赦し・・・マタイ 6:14~15 自分が被った人の過ちを赦す
- (4) 神のみこころにしたがい、神の答えを受け入れる
- (5) 神がある時点でこれ以上癒しを求めてはならないとされる段階がある、そのことをいつも心に留めておいて、その時点を見きわめる
- (6) どのようにして癒やすのか、その方法は神がお決めになること。必ずしも奇跡的に癒すばかりではない。癒しの方法は神にゆだねる
- (7) どのような結果になっても、神をほめたたえ、感謝をささげる
- (8) 病人に対して愛を示し、細やかな気配りをする。特に他の病人が癒されたとき。
- (9) 時として奇跡的な癒しが起きる。しかし、それを決して普遍化しないこと。いつも奇跡が起きるわけではないことを心得る

スピリチュアル・ライフに関する 8 つの論稿

□MBS136 スプリチュアル・ライフとは

イントロダクション

- (1) 「霊的であること」の 3 つの要素：時間、聖霊、時間
- (2) 「霊的であること」が含む重要なコンセプト：成熟（霊的に成長して大人になり、さらに円熟へと向かうこと）
- (3) 定義
 - ① 「霊的であること」とは、聖霊との関係において成長すること
 - ② スピリチュアル・ライフ（霊的な生き方）とは、「霊的な人」になるための生き方である。そして「霊的な人」となっても、さらに成長し、円熟に向かう生き方である。
1. 「霊的であること」とは、どういうことかを理解するための 6 つの説明
 - (1) 新しい信者・・・新しい信者には、「霊的である」とは言わない。時間との関係。
 - (2) 成熟・・・古い信者だからといって、大人になっている、あるいは成熟しているとは限らない。時間は経っていても、成長していないケースがある。
 - (3) スピリチュアル・ライフの領域：祈りや礼拝の時間のことではない。スピリチュアル・ライフは、多くの領域から構成される。信者の人格、家庭生活、教会生活、社会生活（とくに職場や事業において）、市民生活など。
 - (4) 後退・・・信者は、ある領域では聖霊にゆだねた生活をしながら、他のある領域では後退してしまうことがある。
 - (5) 成長の段階・・・新しい信者がすぐに霊的に大人になるわけではない。時間が必要である。また、大人になったからといってそれで成長が止まるわけではない。さらなる成長の余地がある。
 - (6) 幼子である期間：新しい信者が霊的に大人になるまでに必要な期間は、4～5 年
2. 「霊的であること」の 3 つの特徴
3. 「神の深み」について：Ⅰ コリ 2：9～3：4
4. 「幼子」と「大人」との対比：ヘブル 5：11～14

□MBS137 スプリチュアル・ライフと信者の生活ルール

□MBS138 スプリチュアル・ライフと聖霊

□MBS139 スプリチュアル・ライフと交わり

□MBS140 スプリチュアル・ライフと弟子

□MBS141 スプリチュアル・ライフと倫理

□MBS142 スプリチュアル・ライフと神の導き

□MBS143 スプリチュアル・ライフと霊的戦い